

特定非営利活動法人 まちづくり山岡 定款

2023/5/30 改正

第1章 総 則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人 まちづくり山岡 という。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を岐阜県恵那市山岡町上手向1228番地1におく。

第2章 目的及び事業

(目的)√

第3条 この法人は、山岡町を中心とした地域づくりのため住民のみんなが一緒になり、心豊かで安心して支えあうことのできる新たな町づくりに寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- 一 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- 二 社会教育の推進を図る活動
- 三 まちづくりの推進を図る活動
- 四 文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- 五 環境の保全を図る活動
- 六 地域安全活動
- 七 子供の健全育成を図る活動
- 八 情報化社会の発展を図る活動
- 九 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

(事業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。√

特定非営利活動に係る事業

- (1) 各種イベントの推進事業
- (2) 各種保健、福祉サービスの提供に関する事業
- (3) 一斉清掃等環境の保全事業
- (4) 社会体育の推進に関する事業
- (5) まちづくりの活動活性化のための調整、助言及び支援に関する事業
- (6) 地域安全活動に関する事業
- (7) 子供の健全育成を図る事業
- (8) まちづくりの推進を図る事業
- (9) 通所介護事業
- (10) 短期入所生活介護事業
- (11) 高齢者、障害者の自立支援に関する事業
- (12) 介護研修事業

(13) 居宅介護支援事業

(14) 介護予防事業

二 収益事業

(1) バザーの開催

- 2 前項第2号に掲げる事業は、同項第1号に掲げる事業に支障がない限り行うものとし、その収益は同項第1号に掲げる事業にあてるものとする。

第3章 会 員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

一 正会員 この法人の活動を企画、推進することを目的として入会した個人及び団体

二 賛助会員 この法人の活動に賛同して支援するために入会した個人及び団体

(入会)

第7条 会員は、入会にあたって、この法人の目的に賛同すること以外に特別な条件を課されない。

2 会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により理事長に申し込むものとし、理事長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

3 理事長は、前項のものの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(会費)

第8条 会員は、総会において別に定める会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が、次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

一 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき

二 継続して2年以上会費を滞納したとき

三 退会届の提出をしたとき

四 除名されたとき

(退会)

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が、次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

一 この定款等に違反したとき

二 この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき

(抛出金品の不返還)

第12条 既納の会費及びその他の抛出金品は、返還しない。

(会員規約)

第13条 会員について、この定款で定めることのほかは会員規約で定める。

第4章 役員等及び職員

(役員の種類及び定数)

第14条 この法人に次の役員を置く。

- 一 理事 3人以上23人まで
 - 二 監事 1人以上3人まで
- 2 理事のうち、1人を理事長、1人以上3人以内を副理事長とする事、及び参与を置く事が出来る。

(顧問等)

第15条 この法人は、法上の役員以外に、総会の承諾を得て若干名の顧問等を置くことができる。

(選任等)

第16条 理事及び監事は、総会において選任する。

- 2 理事長、副理事長は理事の互選による。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1名を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。
- 4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。
- 5 参与については理事長の選任による。

(職務)

第17条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

- 2 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき、又は理事長が欠けたときはその職務を代行する。
- 3 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
- 4 監事は、次に掲げる職務を行う。
 - 一 理事の業務執行の状況を監査すること
 - 二 この法人の財産の状況を監査すること
 - 三 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること
 - 四 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること
 - 五 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること
- 5 顧問等は、この法人の事業運営上の助言を行うことができる。

(任期等)

第18条 役員等の任期は、就任時の事業年度の決算承認に関する通常総会の終結のときまでとする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠のため、又は増員によって就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。
- 3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第19条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第20条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。

一 心身の故障のため、職務の執行に堪えないと認められるとき

二 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき

(報酬等)

第21条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(職員)

第22条 この法人に、事務を処理するため事務局を設け、事務局長及び必要な職員をおく。

2 事務局長は、理事会の承認に基づいて理事長が任免する。

3 事務局の組織及び運営に関する必要な事項は、理事会の承認を経て理事長が別に定める。

第5章 総 会

(種別)

第23条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(構成)

第24条 総会は、正会員をもって構成する。

(機能)

第25条 総会は、以下の事項について議決する。

一 定款の変更

二 解散

三 合併

四 事業計画及び収支予算並びにその変更

五 事業報告及び収支決算

六 役員の選任又は解任、職務及び報酬

七 会費の額

八 借入金（その事業年度内の収入をもって償還する短期借入金を除く。第52条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄

九 その他運営に関する重要事項

(開催)

第26条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

一 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき

二 正会員総数の5分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき

三 第17条第4項第4号の規定により、監事から招集があったとき

(招集)

第27条 総会は、前条第2項第3号の場合を除き、理事長が招集する。

2 理事長は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときは、総会の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第28条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第29条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第30条 総会における議決事項は、第27条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 理事又は正会員が総会の目的である事項について提案した場合において、正会員の全員が書面により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の総会の決議があったものとみなす。

(表決権等)

第31条 各正会員の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した正会員は、前2条、次条第1項及び第53条の適用については、総会に出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(書面又は代理人による議決)

第31条の2 第31条第2項の規定による書面をもって表決権を行おうとする正会員はあらかじめ通知のあった事項について表決権行使書面にそれぞれ賛否を記載し、これに署名又は記名押印のうえ、指定された日の業務時間の終了時までこの法人に提出しなければならない。

2 第31条第2項の規定による正会員が議決権を行わせようとする代理人は、同一世帯に属する成年者又はその他の正会員でなければならない。

3 代理人は、3人以上の正会員を代理することができない。

4 代理人は、代理権を証する書面をこの法人に提出しなければならない。

附則

この規則は諸官庁の認可があったときから施行する。

(議事録)

第32条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

一 日時及び場所

二 正会員総数及び出席者数（書面表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）

三 審議事項

四 議事の経過の概要及び議決の結果

五 議事録署名人の選任に関する事項

- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が、署名押印しなければならない。

第6章 理 事 会

(構成)

第33条 理事会は、理事をもって構成する。

(機能)

第34条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。

- 一 総会に付議すべき事項
- 二 総会の議決した事項の執行に関する事項
- 三 事務局の組織及び運営
- 四 その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第35条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- 一 理事長が必要と認めたとき
- 二 理事総数の3分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって召集の請求があったとき
- 三 第17条第4項第5号の規定により、監事から召集の請求があったとき

(招集)

第36条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は、前条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面若しくは電子メールをもって、少なくとも3日前までに通知しなければならない。

(議長)

第37条 理事会の議長は、理事会において定める。

(議決等)

第38条 理事会における議決事項は、第36条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第39条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。
- 3 前項の規定により表決した理事は、前条第2項及び次条第1項の規定の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第40条 理事会の議事については、次の事項を記録した議事録を作成しなければならない。

- 一 日時及び場所

- 二 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者にあつては、その旨を付記すること。）
 - 三 審議事項
 - 四 議事の経過の概要及び議決の結果
 - 五 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が、署名押印しなければならない。

第7章 資産及び会計

（資産の構成）

第41条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- 一 設立当初の財産目録に記載された資産
- 二 会費
- 三 寄附金品
- 四 財産から生じる収入
- 五 事業に伴う収入
- 六 その他の収入

（資産の区分）

第42条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産及び収益事業に関する資産の2種とする。

（資産の管理）

第43条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

（会計の原則）

第44条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って、行ふものとする。

（会計の区分）

第45条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業に関する会計及び収益事業に関する会計の2種とする。

（事業計画及び収支予算）

第46条 この法人の事業計画及びこれに伴う収支予算は、理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

（暫定予算）

第47条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収入支出することができる。

2 前項の収入支出は、新たに作成した予算の収入支出とみなす。

（予備費の設定及び使用）

第48条 予備超過又は予算外の支出に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。

2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

（予算の追加及び更正）

第49条 予算議決後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加又は更正することができる。

（事業報告及び決算）

第50条 この法人の事業報告書、収支計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。
(事業年度)

第51条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。
(臨機の措置)

第52条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

第8章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第53条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数による議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する軽微な事項を除いて所轄庁の認証を得なければならない。

(解散)

第54条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- 一 総会の決議
- 二 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- 三 正会員の欠亡
- 四 合併
- 五 破産
- 六 所轄庁による認証の取り消し

2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の承諾を得なければならない。

3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認証を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第55条 この法人が解散（合併又は破産による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、解散時の総会で決議したものに譲渡する。

(合併)

第56条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第9章 公告の方法

(公告の方法)

第57条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。

第10章 雑 則

第58条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

附 則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

理事長	西尾 弘
副理事長	伊藤 敏彦
事務局長	大島 尚雄
理事	後藤 敏夫・勝 昭義・鈴木 信男・安藤 龍雄
監事	鈴木 信男・堀 克巳
- 3 この法人の設立当初の役員の任期は、第18条第1項の規定にかかわらず、成立の日から平成17年5月31日とする。
- 4 この法人の設立当初の事業計画及び収支予算は、第46条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。
- 5 この法人の設立当初の事業年度は、第51条の規定にかかわらず、成立の日から平成16年3月31日までとする。
- 6 この法人の設立当初の会費は、第8条の規定にかかわらず次に掲げる額とする。

(1) 年会費	2,000円
---------	--------
- 7 定款の改正は、所轄庁から認証があった日から施行する。

100

